

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	解剖生理学Ⅰ		
担当者(Instructors)	中野 匡隆	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
「正常な人体の構造と形態（解剖）と機能（生理）」を授業のテーマとする。人体は各臓器が相互に情報を伝達する緻密なネットワークを構築する。一方で、各臓器は人体の内部環境を一定に保つための呼吸、血液循環、消化と吸収、代謝、排泄、内分泌等の機能を有している。本講義では、人体の構造・機能等を学び、人間の健康を学ぶために必要な知識を習得する。基本的なつくりである「正常な人体の構造と形態（解剖）と機能（生理）」を学ぶことで、各臓器を構成する仕組みを理解する。また、人体の構造・機能を自分自身の身体に置き換えて理解し、体系的に学ぶ。解剖生理学Ⅰでは、主に呼吸、循環、神経、体温調節、排泄、生殖と出産について学ぶ。それによって、生活の中で役立つような知識として身につけることを目的とする。

■ 授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	基本は講義形式で授業を行う。 場合に応じて、グループワーク形式などで受講者同士での解答や内容の確認を行うピアインストラクションやディスカッションの機会を設ける。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	本授業の概要	解剖生理学総論、人体の構成、各器官系とその働きの概要について学習する。	□
第2回	神経系（１）：神経系総論	神経系の分類、神経細胞の構造とその働きとして活動電位などについて学習する。	□
第3回	神経系（２）：中枢神経系	脳と脊髄の構造とその働きについて学習する。	□
第4回	神経系（３）：末梢神経系	運動神経、知覚神経、交感神経、副交感神経の構造とその働きについて学習する。	□
第5回	感覚器系：感覚	光、音、香、味、平衡覚、触覚、痛覚、温冷感などの環境情報の受容における目、耳、鼻、舌、皮膚などの感覚器の構造とその働きについて学習する。	□
第6回	循環器系（１）：血管系、リンパ系	動脈と静脈およびリンパ管の構造の違いからそれぞれの役割について学習する。	□
第7回	循環器系（２）：心臓の生理、血圧と脈拍	心臓の構造と働き、心拍出量の調節、心臓の電氣的興奮を理解するために特殊心筋の刺激伝導系および血圧と脈拍について学習する。	□
第8回	呼吸器系：呼吸の生理	ガス分圧差による拡散の仕組みを理解し、酸素と二酸化炭素の肺胞-血液間、血液-細胞間でのガス交換および運搬について学習する。	□
第9回	神経系、感覚器系、循環器系、呼吸器系についての学習内容の振り返り	神経系、感覚器系、循環器系、呼吸器系について学習内容を振り返る。	□
第10回	体液・血液：体液・血液	血液の成分である赤血球、白血球、血小板の働きとそれぞれの役割および体液の組成や酸塩基平衡について学習する。	□
第11回	体温とその調節（１）：体温、体熱の産生と放散、体温の調節と異常	核心温、皮膚温の違い、体温が変化する仕組みとして蒸散性熱放散と非蒸散性熱放散について学習する。	□
第12回	体温とその調節（２）：発汗、熱中症、行動性体温調節	発汗、熱中症、行動性体温調節について学習する。	□
第13回	泌尿器系：尿の生成と排泄	腎臓における腎単位の構造と働き（濾過、分泌、再吸収）による尿生成の過程を理解し、その排泄のメカニズムについて学習する。	□
第14回	生殖器系：生殖と出産	人の発生から出産までの過程について学習する。	□

第15回	体液・血液、体温とその調節、泌尿器系、生殖器系についての学習内容の振り返り	体液・血液、体温とその調節、泌尿器系、生殖器系について学習内容を振り返る。	□
------	---------------------------------------	---------------------------------------	---

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details) 【事前学習】授業内容の概要をみて、テキスト、参考図書、webを利用し、講義に関わる用語などを程度理解して、講義に臨む（1時間）。【事後学習】この講義の理解を深めるためには『ノート制作』がとても重要であり、講義中だけでは、『十分に理解できるノート』は完成できないため、次の講義までに『わからなかったことが、わかるようになったノート』、または『わからないことが、「何か」、わかるようになったノート』を完成させる（3時間）。
--

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback) ノートに関しては随時、質問・相談を受け付ける。小テスト、中テストなどは授業内で解説し、採点作業は学生自身で行う。ただの作業とならず、自身の理解度のチェックに役立てる。
--

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019人間健康DP1	1. ヒトの身体の各器官系における基本的な構造と働き（各回のテーマ）を理解している。 2. ヒトの身体の各器官系における基本的な構造と働き（各回のテーマ）を説明できる。 生活の中で役立つような知識として身につけることが出来ている。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
55%	0%	0%	15%	30%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents) 中テスト20%、レポート10%				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	竹内修二、読んでわかる解剖生理学、医学教育出版社	978-4-87163-465-6
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	竹内修二、解いてわかる解剖生理学、医学教育出版社	978-4-87163-466-3
2		
3		
4		
5		